

「能登半島の今 (1)」

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所

田中 千尋 Chihiro Tanaka

日本列島は海洋に囲まれ、地殻変動が盛んで、地震、津波、火山噴火、台風などの災害が頻発しています。あまりにも高頻度で自然災害が発生しているので、少し前の災害は、あっという間に記憶から消えてしまうほどです。

2024 年の元日に起きた能登半島地震もその一つです。地震後の数か月間は、盛んに報道され、政府も自治体もさまざまな支援や対策を行ってきました。しかし最近では報道の中でもほとんど話題にされることはありません。

「自分で脚を運び」「自分の目で確かめる」・・・これをしてしないとわからないこともあります。果たして今の能登はどうなっているのか、どんな状況なのか、私は一度自分で確かめたいと思い、行ってきました。



列車で能登半島に入る場合は、金沢駅（北陸新幹線）または津幡駅（在来線）が根拠地（乗換駅）となります。今回は自動車なので、北陸新幹線の「新高岡駅」を出発点としました。

新高岡駅は、在来線の高岡駅と少し離れたところにあり、両駅間はバスか列車（JR 城端線／じょうはなせん）に乗る必要があります。高岡市の中心街は現在でも高岡駅周辺ですが、新高岡駅周辺も急速に開発が進んでいます。

駅前にはホテル（東横イン）、そのすぐとなりにレンタカー（トヨタ）があって、大変便利です。また駅前からは、合掌造りで有名な「白川郷」や「五箇山（ごかやま）」への直通バスも発着しています。



高岡市郊外の IC から高速に乗りましたが、この区間は現在「無料通行区間」となっています。高岡に近い「能登半島の南部地域」は、比較的被害も少なく、道もきれいでした。



高速を一旦降りて、「のと里山海道」に入ります。震災後の早い段階で復旧工事が行われて、災害復旧に関わる車両が通れるようになった道です。



しかし、この道はまだ完全には修復できていません。陥没して応急的に修理した箇所、片方向の法面が崩れて、交互通行になっている箇所が多数あります。40km制限の区間が多く、移動にも時間がかかります。「輪島 52km」の距離程標識も、傾いたままでした。



それでも全線復旧していて、旅行者の私でも自由に通れるようになっていました。本当に有難いことだと思いました。



今回、特に自分の目で見ておきたいと思ったのは、土地の隆起の状況です。特に能登半島北部（輪島市の東西）は、関東大震災以上の隆起が見られた地域です。最初に行ったのは「能登金剛（のどこんごう）」という景勝地です。



見たところ、目だった隆起も感じられず、汀線に近い岩も顕著な変色域は見られませんでした。どうやら、隆起があった地域は、半島北部のかなり限定的な海岸だけだったようです。



能登の海は美しかったです。この日は波も穏やかで、すでに磯めぐりの遊覧船も運行していました。私は時間がなかったので乗れませんでした。このあと外国人の団体で満員になっていました。



輪島市が近づくにつれて、少しずつ被害のあとが見えてきました。屋根瓦が崩れたままの民家も、ところどころに残っています。



幹線道路の復旧はかなり進んでいますが、少し細い道は、必ず交差通行の道が残っています。この道は地震とその後の豪雨で右側の法面が崩落し、崩れたアスファルトがそのまま堆積していました。工事をしている様子はなく、当分復旧できないように見えました。